



2009年5月7日
 森林塾青水
 事務局便り
 茅風通信 27号



古き世の火色ぞ動く野焼きかな 蛇笏

- 08年12月～09年4月の活動報告(事務局) 1
- 特別寄稿「2008年の活動に参加して」(草野洋) 2
- 特集Ⅰ：かんじき雪原トレッキング 3
 - 早春の藤原で発見！(小堤涼子)
 - 颯爽とシリセード！(原澤 修)
 - 既にして立派なエコツアー。次は着地型を！(清水英毅)
- 特集Ⅱ：野焼き&除伐 5
 - 焚き火好きの息子と参加した野焼き(須藤みほ)
 - 野焼きをみながら(哈斯)
 - 草原デビューの記「野焼き」(林和実)
 - 茅刈り、そして念願の野焼き初体験(尾島キヨ子)
 - 感性の大切さを教わりました(日大生物資源科学部一同)
 - 野焼きを眺めながら“生物多様性”に関する一考察(阿部剛志)
 - 野焼きのお手伝いをして(みなかみ町役場・金子拓紀)
- 事務局からのお知らせ 9
 - 第3回講座「 commons村・ふじわら」参加者募集案内
 - 全国草原再生ネットワーク「総会」の藤原開催決定
 - 新規ご入会と寄付金をありがとうございました
- 編集後記～塾長のつぶやき～ 10

■08年12月～09年4月の活動報告

事務局

- 12月3日：幹事会。08年の活動の振り返りと今後の課題など検討。
- 12月8日～9日：みなかみ町役場・鈴木町長、商工会、観光協会ならびに藤原・地元の皆さまに08年の活動実績の報告とお礼言上(清水)。
- 12月22日：『茅風』26号の発送作業(浅川、清水)。
- 1月7日：幹事会。09年度方針・課題の検討。
- 1月8日：日本自然保護協会にて『日本を元気にする里山保全活動』の記事取材対応(清水)。
- 1月27日：幹部会。09年度重点活動方針の検討。 ○2月4日：幹事会。08年度決算案ならびに09年度活動方針案の検討。
- 2月14日～15日：第7回講座「 commons村・ふじわらーかんじき雪原トレッキング」開催。参加17名。詳細は特集Ⅰご参照。
- 3月4日：幹事会。09年度事業計画案ならびに予算案の策定。
- 3月7日～8日：藤原・地元、みなかみ町教育旅行協議会、同商工会、水上高原リゾート200を歴訪、09年度事業につき連携、協力をお願い(草野、清水)。
- 4月1日：幹事会。08年度決算案ならびに09年度事業計画・予算案の決定。4月・野焼きの準備・役割分担の検討(川端)。
- 4月4日：「会員総会」&「草原再生セミナー」開催。於、青山環境パートナーシッププラザ。参加、計38名。付議事項は幹事会案をもって全て承認。藤原・地元ならびにみなかみ町役場・商工会から8人も遠路のところお運びいただきました。この場をかりて、重ねてお礼申し上げます。
- 4月7日～8日：みなかみ町役場・商工会、利根沼田森林管理署・飯干署長ならびに藤原集落を歴訪、野焼き実施に際し協力方お願い。FM尾瀬より野焼きに関する取材受対応(清水)→4月15日放送。
- 4月18日～19日：第1回講座「 commons村・ふじわらー野焼き&侵入樹木の除伐」実施。参加者計、延べ100余人(過去、最高を記録。詳細は特集Ⅱご参照下さい)。



「森林塾青水 2008 年の活動に参加して」

林野行政一筋に 40 年。自称「山官」が森林塾青水の活動を通して、見たもの感じたことを綴っていただきました。(編集・注)



40 年勤めた山官を退職した 4 月から森林塾青水に入会し、イベントに 4 回参加させていただきました。

全体では、会員参加のイベントは 11 回行われているので半分にもならないがこの一年青水のおかげで新たな楽しみを見つけた気がします。また、多くの方々と知り合い世界が広がりました。皆さんありがとうございました。今後ともよろしくお祈りします。

私が参加したイベントを振り返りました。

4 月 12 日：年次総会

明るいざっくばらんな雰囲気の中での総会はパワーポイントを使った活動の紹介が分かりやすく即入会となりました。

その後、滑志田さんが地球温暖化対策の解説と青水の活動に対する想いを講演されて

森林行政との携わりに一段落つけた私にとってこの問題への周囲の関心の強さを知らされました。

4 月 26, 27 日：5 年目の野焼

12 年目の再訪問した水上・藤原、懐かしい地元の方々に会いました。野焼の火は幼い頃や故郷を思い出し郷愁にかられました。パチパチと燃え上がるカヤ野、たなびく白、黒、青の煙に退職後の別の人生も頑張るぞとの決意がわきました。

9 月 20 日：草原再生セミナー

当号に寄稿 省略

10 月 25, 26 日：茅刈講習会&コンテスト

世界で初めての茅刈コンテストは程よい気温の中、待望の子供たちの歓声が聞こえる中でザクッ！ザクッ！ザクッ！茅刈の音は心地よいものでした。稲刈りで慣れていたつもりでも勝手が違い 40 年のブランクを感じました。茅の半枯れのおいが鼻をくすぐり何よりもこの茅で諏訪神社の屋根がよみがえるかと思うとうれしくなり心をこめて刈りました。

藤原の人々の温かいもてなしと協力がうれしい 2 日間でした。

11 月 8, 9 日：ボッチの運び出し&山の口終い

重労働でした。少し張り切りすぎてその後腰を痛めました。それには訳が…今回は家内に同行してもらいました。初めは嫌がっていたのですが無理せず藤原のすばらしさと会員の方々の気楽さを根気よく伝え、同じ思いを感じてほしいなどと説得したのが成功しての茅出しの共同作業ですから張り切り過ぎるを得なかったのです。

家内も楽しかったようでその後このときのことをよく話しています。また、この活動でいつもの私にないものを発見し見直してくれたようで作戦がまんまと成功しこれからの参加がしやすくなったかも。

茅は重く斜面を何度も何度も往復しましたが充実感と快い疲れが残りました。茅の枯れた少し麴のにおいがするのがいいですね。茅の中で昼寝したくなりました。

その時思い出したことです。

私が生まれ育った集落の同級生は男の子 5 人、女の子 3 人でした。その中に澄子という少しひ弱な色白の女の子がいました。その子はお母さんが茅刈に行き茅場で産気づき生まれたと言われていました。母子はリヤカーに乗せられて帰ってきたそうです。臨月になってまで茅刈にはいかないでしょうから早産だったのかもしれませんが。

「この子で子供は済みにしようだから澄子」と名付けられたとも聞いたことがあります。本当に末っ子で可愛がられ皆よりいい服を着ていました。茅場で生まれた澄ちゃんはその後丈夫に育ち私たち 7 人と野山を駆け回って遊び、分校では 3 年間机を並べて勉強しました。脱脂粉乳が給食として配られその入れ物の段ボールのドラム缶で遊んでいたころのことです。

そういえば澄ちゃんはすこし甘いにおいがしていたかも／・・・。



■特集Ⅰ： かんじき雪原トレッキング

◆早春の藤原で発見！

小堤涼子

5歳の愛娘・さらちゃんが気づいて、お母さんに語ってくれた新鮮な発見の数々です(編集・注)



「雪上で見つけた鹿とキツネとウサギの足の形」「雨呼山の登山道に雪が積もってできた天然滑り台は最高に楽しい」「上の原のウサギのウンチは、幼稚園で飼っているウサギのウンチと色も形も違うこと」「野ねずみは、グミが好きじゃない」「秋の藤原にはたくさんいるカメムシが、冬にはいない」「上の原でソリに乗る時は、できるだけ高いところから滑ったほうが楽しい」「ボタの作り方を教えてくれた惣一郎さんのお孫さんは、スキーマの選手で、そのお孫さんがオリンピックに出場すれば、惣一郎さんは応援でヨーロッパに行くかもしれないこと」
五歳になった娘が、2月の森林塾で発見したことは、母親の私に語ってくれただけで、こんなにたくさんものがありました。たった1泊2日のわずかな時間で、彼女はテレビや教材では絶対に知ることのできない知識を身につけたのです。

先日、娘の幼稚園の先生から「さらちゃんは、園庭のビオトープ等の自然現象にとっても興味を持って接していますよ」と教えていただきました。「泥や汚い水も平気で触れます」とほめていただきました。おそらく、娘は森林塾で接してきた土や木の葉の感触を覚えていて、自然に対する好奇心を忘れずに持ち続けていられるのだと思います。

今後も、藤原の自然で娘を育てていただき、その自然を守るお手伝いをさせていただきたいので、できるかぎり森林塾に参加させていただきたいと思っています。

今回、母親である私が悔やまれることがひとつ。雨呼山の雪道を久し振りに歩いて疲れ果てて寝てしまい、満天の星空を見そこなってしまっただけでなく、モンゴルの焼酎「チンギスハン」をまたもや今年も飲むことができなかったことでした。残念。



◆颯爽とシリセード！

原沢 修

みなかみ町役場税務課の原沢さん。山登りの大ベテランが大幽洞窟へかんじきトレッキングしました(編集・注)

私は2月15日に「コモンズ村・ふじわら」のかんじき雪原トレッキングに参加させていただきましたみなかみ町役場の原澤と申します。

みなかみ町は平成17年10月に、水上町、月夜野町、新治村の三町村で合併して生まれた町ですが、私は旧月夜野町出身ゆえ、藤原地区(旧水上町管内になります)の冬というと、暗い、寒い、・・何だか恐ろしい・・と言う先入観で何となく避けておりました。



さて、不安と車を走らせ藤原遊山館に到着です。雪堀体験に合流し巨大な雪だるまにかまぐらの入り口を掘削します。かまぐらのサイズがあまりにも大きいので早速かんじき雪原トレッキング隊は雪堀隊と別れトレッキング出発地点へ移動です。目的地は大幽洞窟。歩き始めると、今年は雪が少ないようで、さらに雨が今月に数回降ったので雪はだいぶしまっておりまして。まるで、春山トレッキングのような陽気の中、トレッキングをすること1時間半。大幽洞窟に到着です。主役の氷匂も想像以上に美しく、大きく、おもわず感動してしまいました。遠くには雪を纏った谷川岳のマチガ沢、一ノ倉沢、幽ノ沢の岩壁群から白毛門から朝日岳、巻機山までの稜

線の眺望も素晴らしく、時間が過ぎるのを忘れてしまうようでした。さて、30分ほど洞窟で休憩をとったので下山をします。下山は登山俗用語で言うとシリセードで颯爽と滑って下ります(ようはお尻で滑って下ることです)。体が塩分不足を訴えた頃、駐車場に到着です。ロッジ樹林で皆さんと合流するとボタづくりが始まっていました。満腹になって藤原を去る頃には明るく、暖かい、楽しいイメージが心地よい疲労感とともにフワフワと頭の中に浮かんで漂っておりました。

突然の訪問者にもかかわらず仲間に入れていただきありがとうございます。また、機会があれば参加したいと思います。



◆既にして立派なエコツアー

次は、「着地型」をめざそう！ 清水英毅

究極のエコツアーは現地から発信する着地型。4月から藤原に移住した北山幹事(水上事務所代表)に期待！(編集・注)



09年度最後の講座「コモنز村・ふじわらーかんじき雪原トレッキング」。5年前から始めて通算すると、35回目を数えることとなった本講座。気がついてみたら、素晴らしいエコツアーになっていた。

惣一郎さんに作り方をご指導いただいたマイか
んじき履いて雨呼山に登り、山頂から雪に埋もれた

集落を俯瞰した。上ノ原から遠望する銀嶺の朝日岳に感動し、動物たちの足跡ウォッチングや糞コロジ
ーを楽しんだ。地元・藤原案内人クラブよりご要請
のあった遊山館の雪堀りは雪が少なくできなかったが、その代わりにかまくら造りのお手伝いでよい汗を流した。

初日の夜は、民宿「樹林」のご家族あげてのおもてなしと心のこもった**地元食**に舌鼓をうち、萬枝さんはじめ地元の皆さん、真庭リーダー以下役場の皆さんと野焼きの日程など新年度の計画の打合せもできた。そして二日目の昼食は、クルミ入りの本格的**ぼた**を惣一郎さんのご指導のもと、皆で割ったり、こねたり、塗ったり、焼いたり**手作り**しておいしくいただいた。

・自然に親しみ感謝し大切にする ・地域の人々と交流し、地域の暮らしの歴史、文化、知恵に学ぶ ・地域の経済や活性化に少しでも役に立つ、などがエコツアーの要件とすれば、講座「コモنز村・ふじわら」は既にして立派なエコツアーではないか。

そして、ボランティア活動の本質が自発性、無償性、社会性、などにあるとすれば、「コモنز村・ふじわら」はボランティア的エコツアーとも言えよう。

エコツアーやグリーンツーリズムの理想型は「着地型」と言われている。旅の出発地の都会では企画できない、訪問先の現地＝地元ならではの体験型旅行プラン。我々のフィールド＝藤原で、地元会員の武さんや一幸さん、北山さんご夫妻たちが料理自慢の民宿の女将さんたちや藤原案内人クラブの皆さんと一緒に、四季折々のプランを作り受け入れる地域間交流・長期滞在指向の「着地型」エコツアー。これが、我々森林塾が次に目指すべき方向ではないか。

そんな楽しい夢のふくらむ2日間だった。惣一郎さん、高田さん、そして民宿「樹林」のご家族の皆さん、ありがとうございました。

豪雪や声を出さねば消える村

(全国俳句コンクールで入選された方の句)



■特集Ⅱ：野焼き& 侵入樹木の除伐

09年度第1回「講座コモンズ村・ふじわら一野焼きと侵入樹木の除伐」を4月18日、19日の両日にわたり開催しました。野焼きは好天に恵まれた18日に実施。午後3時に火入れ、抜けるような青空をバックに燃え上がる紅蓮の炎が防火帯の残雪と重なり、まことに見事な色のコントラストを見せてくれました。

参加者は首都圏からの51名に、地元指導員・住民、町役場職員のほか写真愛好家、マスコミ関係者などが加わり約100人。小さなお子さん連れの家族が5組も参加、残雪の草原で遊び戯れる光景はまさに、絶滅危惧種“ハラガキ”復活を思わせるものがあり感動的でした。

◆焚き火好きの息子と参加した野焼き 須藤みほ

焚き火が大好きでたまらない長男・一真くんに引かれて参加の須藤ファミリーでした(編集・注)



こんにちは。須藤です。先日は野焼き、お疲れ様でした！我々が想像していたよりも、ずっとハードワークでした(笑)が、それがとても楽しかったです。

遠巻きに「さあ、火をつけまーす」なんてのを、ほうう、と眺めるものかと思っちゃってました。何より、集まっていた皆様がとても素敵な方ばかりで・・・

息子の入学で、見知らぬ人との関わりが急激に増えて(引っ越ししたばかりなもので)なんともストレスフルな一週間を過ごした後だったので、命の洗濯をしたような(大袈裟っぽいですが)、心がスッキリしました！

野焼きは、野原のリフレッシュですが人間の気持ちもリフレッシュさせてくれますね。息子が焚き火好きだから、と、気軽に参加してみました。本当に楽しかったです。ありがとうございました！！

チビ達は「雪」が一番印象に残ったようでした。また参加できる機会がありましたら是非よろしくお願いします。

◆野焼きをみながら・・・

ハス(ハス)

草原の国・内モンゴルからの留学生ハス(ハス)さんの野焼き初体験記です(編集・注)



はじめて参加させていただきました。中国の内モンゴルから来た留学生です。

「春」と言う日本では桜が咲きはじめ、学校に入学したり会社に入社する時期と言うイメージがあります。モンゴルの春は一年の内では大 自然の移り変わりが一番激しい季節と言われています。日本にも、モンゴルにも、春は「万物の始まり」と言う季節に日本に来て、日本ではのはじめての自然体験ができたのは大変うれしいと思います。

皆さんと一緒に木を切ったり、木を切る音を聞いたり、火をつけたり、いろいろな交流したのは本当に楽しかったです。そして、はじめて野焼きを見て、おどろきました。一気にまん暗くになってしまいました。自分で火をつけたいと思ってやってみたが見るより怖くありませんでした。また、山に雪があるのがめずらしいと思いました。私のふるさとでは雪が降っても、すぐに溶けてしまいます。

日本に来たばかりの私が民宿に泊まって民宿の美味しい料理を食べさせていただき、特に、焼きおにぎりは一生忘れられないおいしかったです。今も食べたい、.....

野焼きを見ながら、日本とモンゴルは現在、一番注目されている問題が同じだと言ってもいいです。両方はもともとの草原を再生することに努力しているでしょう。日本人は野焼きをして草原を再生することに力を入れています。われわれのモンゴル族は木を植えたり、現在、内モンゴルでは放牧を半年間(1-6月)禁止されたり、しています。日本とモンゴルの気候が全然違います。日本はやっぱり湿気が多いのに、モンゴルは乾燥しています。したがって、野焼きはモンゴル高原に合わないと思います。これから、最もいい方法を求めるのはわれわれの若者の義務ではないかと思えます。21時代は若物の自分たちががんばらなければならない時代と言われているから、時代に負けないように頑張る、周りの環境を守りましょう。

最後に、二日の野焼き活動に参加させていただき、大変うれしかったです。今までの人生にはいい体験だったと思います。日本文化を理解するにも大変役に立ったと思います。これから、勉強や仕事に大事にしてがんばります。私は成瀬さんの応援のおかげで今回参加できたのです。成瀬さんに本当に感謝しております。また、「森林塾青水」に参加した皆さんにも本当にお世話になりました。どうも、ありがとうございました。

◆草原デビューの記「野焼き」

林 和実

現役時代、海外駐在歴 12 年の林さんが日本に落ちていて 3 年。野焼きで草原デビューの記です(編集・注)



思い起こせば半年前。定例の大学時代の同級生 5 人の懇親会(言い換えれば良き仲間の単なる酒宴ですが)で森林塾青水・会員の関根君から会の紹介があり、その趣旨に共鳴し酒の勢いで同席の逸見君も誘い 10 月中に二人とも会員登録をしました。

私をこのような気持ちにさせたのは、日本の自然、日本の文化をこよなく愛する心からですが、これは一つには客観的に日本を見ることが出来るようになったことも大きく影響しているようです。定年退職して 3 年ですが現役時代に 3 回、延べ 12 年の海外駐在経験をさせてもらいましたが、都度帰国するたびに日本の自然風土、文化遺産の素晴らしさを再認識し日本人はそれをもっと誇るべきであり、またそれは絶対に次世代に引き継いでいくべきであるという思いが芽生え、そしてその為のお手伝いが微力ながらも実践出来ればとの考えからです。

そして、時は来たれり ! ! ! !

心の準備は十分整い、雪解けにも対応できる長靴も買い 4 月 18 日関根、逸見との 3 人組で上の原「入会の森」に向かいました。天気は申し分ないほどの快晴で谷川岳に連なる笠ヶ岳や朝日岳は真っ白な雪をかぶり心身共に爽快な気分の中で火入れは始まりました。開始前に注意事項を受けてから初参加の私と逸見はシャベルを持っての鎮火担当でしたが、実際に作業をしてみると炎と煙の勢いは大

変なもの改めて認識し十分な注意、監視が必要なことを実感しました。そして、終わった後の黒い台地を見てこれらが秋になると豊かなススキ/茅の原に変わるのかと想像するとまた楽しい気持ちにさせてくれました。

夜は原先生のお話に感銘し、懇親会で大いに(と、いうか呆れるくらいに)飲み交わしつつ話に花を咲かせ高原の楽しい初日は過ぎてゆきました。

翌日 19 日も快晴。雑木の除伐作業を手伝い昼食後に散会となりましたが二日間で認識したことは「自治体も含めた地元の皆様のご協力があってこそこのプロジェクト」と思いますし、ここまで深く浸透し信頼を得ることが出来たこれまでの清水塾長はじめ森林塾青水の皆様のご努力の賜物であることと思います。ここにあらためて、敬意を表します。

これからもできる限り参加する所存ですが、会社勤めを退いた今の私のモットーは“人生は楽しくあれ!”です。のであまり義務感にとらわれず長続きするため楽しんで参加するように致したいと思しますので懇親会などで失礼がありましたらお許し下さい。

◆茅刈り、そして念願の野焼き初体験 尾島キヨ子

東京新聞で知った「青水塾」の活動。昨秋、茅刈りに参加。そして、念願の野焼きにも参加されました(編集・注)



私は予々「火」、「水」、「土」は人が育つ上で玩具としてとても大事だと思っていました。夫々とても美しいものであり、また、とても怖いものでもあります。その美しさを感じ、その怖さを理解してそれらと付き合うことができるのは人としてとても重要な部分を占めていると思うからです。しかし、現代生活ではそれらで遊ぶ機会はとても少なくなってきました。特に火は日常生活では略ゼロです。そんな時に東京新聞の紙面で「青水塾」の活動を知り、茅刈りに参加し、そして念願の野焼きに参加したのです。

フィールドの斜面にはすでに地元の人によって幾筋かの雪の火防帯が遥か向こうの林縁まで造られていました。野焼きの説明、実習、野焼き場所の除伐後、着火。映像でしか見たことのない私は現場ではどういう動きをすれば良いのかあまり想像できませんでした。青い杉の葉の枝を持った私は消火隊として火防帯で待機していたのですが、斜面下から着火して上に燃え広がって来ても火防帯直前で消えるのであまり「消火！」という緊迫感はありませんでした。しかし、火防帯が途切れ、地形的にも「火が上がって来たら大変！」という所では流石に緊張しました。所々ちよろちよろと炎が上がっている所を押さえて消火するのですが、杉の葉を上げるとそこだけ黒い燃えカスが飛び散り下に湿った枯れ茅が見えてきます。それでも時々勢いよく燃える時があり、屈んで火を見ると手前の透明なオレンジ色の盛大な炎を通して、ちろちろと燃えるオレンジ色の炎のラインが黒い燃えた部分とこれから燃える枯草色を分けているのが見えます。そして、近くではバンッ、バンッと茅が弾け、向うではパチンパチンと静かに燃えています。目の前に集中していて、気付いて立ち上がり見渡すと既にずいぶん広い面積が黒くなっていて、自分の居場所も作業と共に思いがけない所に移動したことに漸く思い至るのです。

当日は青空にまだ雪の残る朝日岳がくっきり見え、雪解け水が流れの筋となって舗装道路を濡らし、午後は陽炎さえ見えました。気持ちの良い天気と素敵な人々との出会いは私に充足の時を齎しました。青水との出会いは私の60代を充実させる大事な一つとなることと思います。

◆感性の大切さを教わりました

日本大学・生物資源科学部「野焼き」参加者一同麗澤中学の「樹木観察会」を一緒にやっている日大生の皆さんがお気づきになったことは……。(編集・注)



今回の野焼きに参加したことで、地元の方や青水さんのお話を聞き、さまざまな樹木や草原、生き

物などを見ることができました。体験をする前、野焼きを行うと植物は生育できないのではないかと考えていました。しかし、野を焼くことによって、草原が維持され、その土地で生息する生き物を守るための重要な活動であることを知り驚きました。

実際に火入れが始まると、火はあっという間に広がり、風向きによってあらゆる方向へ火が回っていきます。先月、野焼きに関する事故がありました。野焼きは一步でも間違えば山火事につながります。そのために、杉の葉で火を押さえ、雪を防火帯とし、最後にくすぶった火の始末としてジェットシューターで鎮火させます。この一連の作業が自然を守るために重要であり、野山を草原として維持するための手助けとなり、さらに、草木の生命力の強さを感じさせられました。



自然散策では、山の斜面に生えている樹木が雪で曲がっていたり、へびとの遭遇に驚いたりシカやウサギの糞、看板に残ったクマの爪痕から、森に生息する動植物の生態を知ることができました。自然は、都会では見ることができない雄大な景色でゆったりした気分になり、日常のあわただしさを忘れられました。

また、今回の体験を通して、感性の大切さを教わりました。例えば木を切った後に手で触れてみると切り落とした樹木の断面が濡れてことから水を吸っていたことが分かり、目を閉じて耳を澄ますと場所によって聞こえる音が違うこと、川の水の冷たさや味がとても美味しいこと、土の柔らかさなど五感を使うことで今まで気づかなかった森の姿が見えてくるのです。これらは、頭で考えるだけでは決してわからない、実際に自然と触れあうことで初めて実感することです。私たちも、この体験から子供たちに自然のすばらしさを伝えていけたら良いと思っています。貴重な野焼きを体験することができ、本当に感謝しております。ありがとうございました。

◆野焼きを眺めながら“生物多様性”に関する一考察

阿部剛志

農山村が失ったのは、動植物の多様性だけではなく他に 2 つもある！ 某一流シンクタンク・気鋭アナリストのご考察です（編集・注）



噂に聞いていた「野焼き」。ようやくその風景を目の当たりにすることができました。なにより驚いたのは鎮火のための手間があまりなかったこと。す〜と燃えて静かに消える、疾風のような野焼きの姿が印象的でした。そんな野焼きを眺めながら、思ったことを書いておきたいと思います。

最近世間ではにわかに「生物多様性」という言葉が飛び交うようになってきており、来年には名古屋で COP10 が開催され、生物多様性に関する国際的な議論が展開されるといいます。森林塾青水の活動テーマの 1 つは「生物多様性の保全」だと思いますが、国や企業の社会貢献活動でも「生物多様性」が重視されてきています。

ただ、今でこそ改めて「生物多様性」が大事とされていますが、地域や私たちの暮らしが元気であり続けるために「生物多様性」が不可欠であったのは今に始まった事ではないと思います。戦後、日本の農山村の元気や持続性が失われていったのも、この「生物多様性」を失ったことが関係しているのではないかと、燃え上がる野焼きの炎を見ながら思ったのです。

戦後、元気だった頃の農山村がもっていて、今の農山村が失った「生物多様性」には 3 つの点があると思います。一つ目は若年層が大都市へ流出し続け、それに見合った流入が得られなかったことによる”人と世代の多様性”の低下、二つ目は小さいながらもかつては農商工業が存在していたが、産業種類の減少に伴う”産業技術・知識を持つ人の多様性”低下、そして生産性の向上を目指し農林地を”生産基盤（単一樹種の人工林、淀みのない農業水路等）”としてきた結果、そこに暮らす”動植物の多様性”が低下したことです。

そう思ったとき、今の森林塾青水の活動に、これらの生物多様性を向上させ、ひいては地域を元気にする要素が備わっていると気づいたのです。

これまで藤原地区と縁もゆかりもなかった都市住民が訪れ、その中には老若男女がいる。さらにはこの地に移住される人まで現れたと聞く。まさに農

山村が失った”人と世代の多様性”がある。そして、この地に伝わりながらも消えかけていた”産業技術・知識”（野焼きやボッチの作り方等）でもう一度この地で経済活動を生み出していること、さらには草地の保全活動をはじめモザイク状の土地利用を維持させることで、この地で暮らすことのできる”動植物の多様性”を担保しているのです。

そう考えると森林塾青水の活動には、これから先、豊かな農山村を育むために必要なノウハウ（生物多様性）がぎっしり詰まっているのではないのでしょうか。

◆野焼きのお手伝いをして

みなかみ町観光商工課・金子拓紀

野焼きは町役場と地元のご協力なしには出来ません。役場で塾の面倒を見て下さっている金子さんのご感想です（編集・注）

4月18日晴天の中、“谷川連峰の残雪”と“上ノ原を焼く火”の、青と白と赤のコントラストが非常に素晴らしく、昨年とはまた違った野焼きを見ることが出来ました。

昨年と同じく前日はあいにくの雨。私たちも前日準備をされていて明日は大丈夫かな！？と心配しながら準備をしていましたが、翌日は朝から雨が上がり火入れ日和となりました。

森林塾青水の上ノ原での活動開始とも言える行事として、山の神様に前年の恵みを感謝し、今年一年の恵みと安全を願って祈るセレモニー“山の口開け”が行われました。

北山さんによる、除伐指導やのこぎり指導が行われ、皆さん真剣な面持ちで参加されていました。

また今回も日大学生さんたちが参加され、野焼きの火消し用の杉枝を一生懸命に切っていたのが印象的でした。

いよいよ火入れが始まり、勢いよく燃え始め、風にあおられゴォーゴォーと音を立てて燃え広がる所もあり、迫力のある野焼きを見ることができ感動しました。

今年度の活動の始まりである野焼きがうまくいったことは、一年間青水の活動が滞りなくできることだと思います。今年度も青水の皆さんのお手伝いをさせて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。



◆第3回講座「コモンズ村・ふじわらー峠のフットパス地図づくりと生き物調べ」参加者募集



ススキ草原は人と生き物の入会地

講座「コモンズ村・ふじわら」2009

参加者募集

第3回 峠のフットパス地図づくりと生き物調べ

森林塾青水では、ススキ草原（茅場）や古道（フットパス）など、地域の自然資源や文化資源の再生と活用に取り組んでいます。講座「コモンズ村・ふじわら」は、その実践プログラムです。講座は今年で6年目。これまでの経験と成果をふまえ、草原の持続的な利用と管理ができるよう、より良い仕組みや方法を検討していきます。第3回の今回は、フィールドの生き物調べと寺山峠をフットパスとして利用するための調査・聞き取り・地図づくりを行います。参加者を募集します。

- 日程 6月20日（土）～21日（日）
- 集合 初日の10時20分、JR上毛高原駅改札口
〈上越新幹線〉東京8:52—上野8:58—大宮9:18—高崎9:52—上毛高原駅10:14
- 参加費 10,000円（森林塾青水会員は9,000円）
※宿泊費、食費（夕食・朝食・昼食）、保険代などを含みます。初日の昼食は各自持参して下さい。現地までの交通費は自己負担です
- 宿泊 吉野家／群馬県みなかみ町藤原3737（0278-75-2710）
- 服装など 野外活動に適した服装（長袖、長ズボン、軍手など）。その他、水筒、雨具、カメラ等
- 申し込み・問い合わせ
森林塾青水事務局・コミュニティデザイン／東京都中央区湊1-2-3プロスペリテハ丁
堀301【電話】03-6228-3503、【ファクス】03-6228-3504、
【メール】info@commonf.net
- 当日・緊急連絡先
清水英毅携帯（090-3575-2283）／川端英雄（080-5415-4351）

参加申し込み 締切日 6月6日

第1日目 6月20日（土）		
時刻	内 容	備 考
10:20	上毛高原駅集合	
11:00	上ノ原「入会の森」へ	
12:00	昼食・休憩（弁当は各自ご持参下さい）	
13:00	生き物調べ（上ノ原「入会の森」）	
16:30	民宿へ	吉野家
18:00	夕食・交流会	吉野家

第2日目 6月21日（日）		
時刻	内 容	備 考
7:00	朝食	吉野屋
8:30	フットパスの地図づくり（寺山峠）…歩いて林相・ポイント・歴史などチェック、記録→地図化	大坪祥一さん（予定）
12:00	昼食	レストラン幸新
13:30	解散→たにがわ416（15:19上毛高原駅発）	

◆全国草原再生ネットワーク「総会」

藤原開催が決定

- 当塾も会員になっている全国草原再生ネットワーク（高橋佳孝会長）の2009年度「総会」がみなかみ町藤原で開催されることになりました。来年の「草原サミット in みなかみ町」開催を目指すものです。
- 「総会」は当塾の第3回講座「コモンズ村・ふじわら」開催日程にあわせ6月20日（土）に開催。翌21日（日）は、上ノ原の茅場や寺山峠のフトパス地図づくりの現場など、藤原集落の視察が予定されています。

◆新規ご入会と寄付金をありがとうございました

- 新規会員：古高利男様（正会員）、川越陽子様（サポート会員）、川崎喬史様（同）
- 寄付金：匿名3万円

■ 編集後記～塾長のつづやき～

- 今回は、嬉しかったことシリーズ。先ずは4月4日、塾発足9年目の「総会」でのこと。遠路はるばる8人もの仲間が大挙参加してくれた。中之条から町田社長、地元・藤原から親男さん、萬枝さんに武さん。そして、みなかみ町役場から真庭次長、木村リーダーと金子さん。こんなに大勢来ていただき上下流交流が賑やかに出来たのは、まったく初めてのこと。この場をかりて、そのお気持ちにあらためて感謝するとともに、何のおもてなしも出来なかったことをお詫び申しあげたい。
- その「総会」が終わって間もなくのこと。会員のAさんが匿名を条件に、寄付金3万円を当塾あてに送ってきて下さった。「芦ノ田峠の橋架け費用の一部に充たされれば幸い」と書き添えてあった。思いもかけぬ嬉しきことにて、直ちに幹事会に諮り、当塾より橋架け作業を担う藤原案内人クラブに寄贈すべきものと決定。野焼き無事終了の4月18日夜、交流会の場をかりて同クラブ・林親男代表にお渡しできた。あらためてご報告し、お礼を申しあげたい。
- ところで丁度そのころ、巷では「定額給付金」の使い道が話題になっていた。「小生にとっては不労所得。寄付してしまおう」と心に決め、給付のあった5月1日、ある里山保全団体あてに即実行。寄贈先、金額は言えないが、Aさんにならって「使途」の希望を言わせてもらった。直接的な消費刺激策にはならないが、みんながやれば塵も積もって農山村振興につながる。皆さんも如何と思う次第。
- このところ、塾の活動に親子連れの参加が多くなっているのも嬉しいこと。小堤涼子ママはお嬢さんのさらちゃんと同三のご参加。雪の藤原では、さらちゃんの“発見”の数々に大喜び！ また、今年の野焼きには5組もの親子が参加、自然に交流してくれた。焚き火が大好きな一真くんはせがまれて参加したのは須

藤ファミリー。みほママの“野焼きは野原のリフレッシュ。人間の気持ちもリフレッシュさせてくれる”なんてスゴイお気づき！かくして、去年の茅刈りに続き今年もまた春から、子供たちの歓声が草原にこだました。絶滅危惧種“ハラガキ”の復活につながることを期待したい。



- 野焼き無事終了後にも、とびきり嬉しい話が飛び出した。締めくくり町田工業の大番頭・富沢さんにご挨拶をお願いした。『藤原のカヤは質が良いので、建物の一番大事な部分（四隅）に使わせてもらっている』と。なぜ良いのか問うと『毎年、掃除をしてきているから』。掃除って何と聞くと『火入れと刈り取りと雑木の除伐』との答え。茅葺きのプロ職人のお話である。勇気百倍、こんなに元気づけられたことはない。これからも、みんなと力を合わせて続けなければと心に誓った次第。
- 最後は、阿部さんの野焼き考について。農山村が失った「生物多様性」には①動植物の多様性の他に②人と世代の多様性と③技術・知識を持つ人の多様性がある、とのご明察。そして、今の森林塾青水の活動には、これらの生物多様性を向上させ、ひいては地域を元気にする要素が備わっているとお気づきになった由。何だか、こそばゆいような嬉しいようなお話だが、全国各地の事例に通暁されているアナリスト阿部さんのご考察である。肝に銘じて、ご期待に応えられよう励みたいもの。



- とにかく、野焼きのパワーはすごい。「野に火を入れる、人の心に火をつける、農山村にも火がつく」と思った。

少年に獣の如く野火打たれ 朱鳥

(青)